



“100年企業”に向けた進化と挑戦を継続

トピアグループでは、半世紀以上にわたり実践してきた「経営理念」と昨年新たに設定した「パーパス」を一人ひとりが共有することにより、“100年企業”を目指し、さらなる進化と持続的成長に向けて、多様な挑戦を続けていきます。

時代が求めるニーズの変化に柔軟に対応するためには、開発スピードの向上と生産の効率化が欠かせません。設備導入による省力化を進めるとともに、効率よく業務に取り組める体制と環境を構築し、現状のリソースを有効活用することで、最大の成果を追求していきます。この指針となるKGI（重要目標達成指標）とKPI（重要業績評価指標）を明確化し、常に確認していくことが現在の私の大きな役割です。

また、グローバル展開を進めていく上では、海外でも活躍できる多くの人財の育成を強化するとともに、意欲ある誰もが公平にチャレンジできる企業風土を醸成していきます。



社会からの信頼と企業価値の向上を追求

トピアグループの持続的成長と企業価値向上において重要なことは、多様な人財の育成であると考えています。国内外のグループ従業員がコミュニケーションを深め、働くことの意義や目的を共有することは、トピアグループのモノづくりへの理解を深め、さらなる成長の原動力になると確信しています。

公明正大に日々の企業活動を行うことがトピアの原点です。「BtoB」という一般消費者には馴染みのない事業を展開しており、認知度を向上させる施策と実績を積み重ねることで、さらに社会から信頼される企業を目指していきます。また、「地域未来牽引企業」および「アジア No.1航空宇宙産業クラスター形成特区」の認定企業として、地域経済に貢献していきます。

自動車分野において確立した技術基盤を応用し企業活動の裾野を広げ、さらなる事業拡大と企業価値向上を目指していきます。



幅広い視野と独自の発想で事業機会を創出

グローバルにビジネスを展開する上で重要なことは、国や地域の制約を最小限に抑え、グループ内のビジネスを円滑に進めることです。また、持続的な成長を実現するためには、新たにモビリティ・ビジネスの事業化が必要と考えています。

トピアグループの強みである開発スピードの速さを活かし、独自の設計と工法でビジネスとして成り立たせることが重要です。同時に、展開する国や地域の需要に合致する供給体制の準備も並行して進める必要があります。

近年、材料の再利用や廃棄物リサイクルに関する規制が一層厳格化しています。トピアではこのような動向を社内で共有し、独自の発想を取り入れた持続可能なモノづくりを推進しています。加えて、海外で重視される人権尊重や環境保護といった考えを踏まえ、新たな価値創出と事業機会の拡大を目指していきます。



取締役
生産本部
櫻井 正人

豊富な実績と経験を活かし、新領域へ挑戦

現在、車体の強度向上と軽量化の両方を実現する大型車体部品の新工法プロジェクトに取り組んでいます。大型パネルの精度安定化を図るための設計解析、切削技術など、蓄積された技術データ群により工数削減や自社独自の技術を確立しています。

高ハイテン材（高張力鋼材）の成形方法や精度向上のノウハウ、蓄積された炭素繊維素材の成形方法がモビリティの軽量化につながり、サステナブルなモノづくりに貢献しています。

当社で製作する車体部品では、玉成力を活かした工数削減を通じ、エネルギー消費を抑えることで環境負荷低減を図っています。他社にはない独自の新技術で、コスト低減と安全性を両立し、お客様の多様なニーズに対応できる生産体制の構築を目指し、技術継承と人材育成に注力していきます。



取締役
TPAM INC.代表
方田 則彦

独創的な試作技術と感性を未来へ継承

TPAM INC.では、海外の自動車メーカー各社とEV化などをはじめとした様々なプロジェクトに取り組んでいます。具体的には、プレス工法や組立、試験・検査などの生産工程に新技術を導入することによる工数削減に加え、各工程における電力消費量の抑制に努めています。

最大の課題は無駄を徹底的に省き、単に別のものに置き換えるのではなく、無駄を生じさせない環境をつくり上げることです。この課題解決に向け、計画的に取り組みを推進しています。

また、海外の視点から日本のモノづくり技術を振り返ると、その卓越した技術力を強く実感しています。大量生産の自動化とは異なり、個々の経験や感覚に裏打ちされた独創的な試作技術と感性を次世代へ継承することが不可欠と考えています。

変化の激しい最新加工技術の分野においても、このような基礎技術を持つ技術者の育成に真摯に取り組んでいきます。



取締役
資材部
佐々木 健仁

再エネで推進するサステナ経営とBCP貢献

トピアグループでは、自家発電による電力効率化と省エネルギーの推進に取り組んでいます。

現在は、太陽光パネルの増設を中心とした太陽光発電の導入を進めており、工場へ設置することによる温室効果ガスの排出量削減に加え、遮熱・断熱といった環境効果も得られています。

また、軽量化や成形技術など独自の強みを活かしたモノづくりを進めると同時に、再生可能エネルギーの積極的な活用を目指しています。

将来における蓄電技術の導入・活用についても検討を進めており、平時の電力効率の最適化に加え、災害時のBCP(事業継続計画)として貢献できる体制の構築を目指しています。持続可能な社会の実現に向けて、社会から信頼され、必要とされる企業として、未来志向のエネルギー活用とサステナビリティ経営の推進に取り組んでいきます。